

肛門直腸静脈瘤，痔核と門脈圧亢進症

Anorectal varices, haemorrhoids, and portal hypertension: *Hosking SW, Smart HL, et al* (Lancet i: 349-352, 1989)

痔核と肛門直腸静脈瘤の成因，および両者の関係については論争が多い。肛門直腸静脈瘤は門亢症に生じる門脈全身側副血行路で，直腸，肛門管，外側肛門縁にできる。痔核は門脈とは直接交通のない血管のクッションであり，直腸には出現しない。それにもかかわらず，両者を同一の疾患であるとみなす者がいる。これら両疾患の門亢症や肝硬変患者における頻度は未だ明らかではない。そこで，100名の肝硬変患者を追跡調査した。

肛門直腸静脈瘤は44名の患者に併発し，年齢，性，腹水，Childの重症度とは無関係であった。発生部位は肛門管，直腸，外側肛門縁の順に多く，外側肛門縁のみの静脈瘤はなかった。一方，痔核は63名に存在し，30名には肛門直腸静脈瘤が共存した。痔核のない肛門直腸静脈瘤は14名であった。直腸出血が認められた19名のうち痔核のみは7名，肛門直腸静脈瘤のみは4名，両者共存は8名であった。両疾患と食道静脈瘤との関連を調べたところ，肛門直腸静脈瘤の頻度は門亢症の期間と共に増加し，門亢症のない19%に対し食道静脈瘤から出血した者では59%に出現した。内視鏡的硬化療法後に肛門直腸静脈瘤の出現頻度は増加しなかったが，これは1.8年の短い経過観察であり更に検討を要

する。一方，痔核の頻度63%は一般集団における50%と大差なく，食道静脈瘤の有無，出血の有無と関連しなかった。

痔核は肛門直腸静脈瘤とは独立した疾患であり，門亢症とは無関係に存在した。これらのデータは痔核と肛門直腸静脈瘤は共存しうるが(当研究では30%)，別個の疾患であることを示している。しかしながら，両疾患とも出血するので，誤診や不適切な治療を防ぐために鑑別上注意深い検査が肝要である。診断には肛門直腸鏡が良い。注腸はカテーテルが読影の邪魔をし，血管造影はルーチンとしては侵襲が大き過ぎるからである。

(県立愛知病院内科 種広健治 抄)